
星と想い 凛と煌く存在となって

刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星と想い　凛と煌く存在となつて

【著者名】

ZZマーク

Z9650Z

【作者名】

刹那

【あらすじ】

昔の夏の日。彼は言った星のようになると。

今の彼は……

臆病な私の切ないひとつとき。

「今夜、星を見に行こうよ」

真つ 暗な夜道。

流星はいきなりそんなことを言い出した。
たしかに今日は星がよく瞬（またた）いている。
たまには、ロマンチックな事を言つただなと思つ。

「そうだな、行こうか」

「たまには良いこと言つのね」

友達の正樹と夕菜が大笑いする。

夕菜が私と同じこと思つていたと思つて私も笑つた。

他、もうもろの友人達も夜の星を見に行こう計画に参加することになつた。

私達は小さな高台の山頂を目指して、歩いた。

孤独や寂しさに押しつぶされないように私も笑いながら歩いた。

高台に到着。

真つ暗な世界から映る夜空には幾千の星が綺麗に瞬いていた。

いつからだらうか。

私は流星、あなたの事を追いかけていた。
ずっと、目で追い続け、体を寄せようとしていた。

どうか。

驚かずに戻りて欲しい。
私の想いを。

「あれあれ、あれが夏の大三角」

流星は私の隣で星空を指差し、星について教えてくれる。
私は必死にその名前を記憶していく。

たしか……夏の大三角は、デネブ、アルタイル、ベガ、からなる
三角形。

よし！ 覚えてる。
ちょっと嬉しくなる。

「ベガがおり姫。アルタイルがひこ星だよ」

「そつなんだ」

へえ。

てっきり、おり姫星とかひこ星っていう星があると思つてた。

あれ？ でも何でだろ？
アルタイルあんまり光つてない。可哀想……これじゃあおり姫が
ひとりぼっち。

まるで、私みたいな……。

楽しげに笑つている隣のあなた。

私は何も言えなくて。

本当は分かっていた。

私があなたのことが好きって事。

私の気持ちは届きはしない。

泣かないで、私。

自分に言い聞かした。

いつも強がってる私は臆病で、全く興味が無いふりしてたけど。
日を追うごとに痛くなる胸の痛みはきっと……『恋』なんだろう。

言わなかつた。
言えなかつた。
君の隣が良い。
この言葉を。

もう戻れない。

みんなに別れを告げ、私と流星は高台に残つた。
それからずっと夜空を眺めてた。
流れ星を見つけるたびに、私は声を出して、そのたび流星は笑つ
て。

いつまでも続いて欲しい、そう思つた。
そんな時、流星は言った。

「帰らうか」

もう夜1時。

高校生が街中を歩く時間じゃない。

「うん」

私も同意した。
立ち上がつて一言。
流星は言った。

「僕は……」

あの夏の日のこと。
あの夜のこと。
みんなみんな思い出せる。

君の笑つた顔も、怒つた顔も、大好きでした。

届かないって分かつてたのに。

私だけの秘密。
私だけの物語。

夜を越えて。

遠い思い出のあなたが。
綺麗な夜空を指差し言つた。
無邪気な声で……。

「僕は、星みたいに凛と煌く存在になるよ」

今あなたは、夜空に輝く星になつて
凛々（りんりん）と輝いているよ。
……

E N D

(後書き)

意味が分からぬ、といつ部分があると思われます。

申し訳ありません。

できれば感想、評価をお願いしたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9650n/>

星と思い 凛と煌く存在となって

2010年10月10日17時07分発行